

社会

出題の傾向

50点満点（歴史20点・地理20点・公民10点）

今年度の特徴は、歴史・地理・公民分野ともに正答率が低いことです。受験生の皆さんは、社会まで受験勉強の手が回らなかったのでしょうか。基本的な問題も、正答率が高くはなかったです。

2019 今年度の出題と解説

①は歴史の問題。

日本の歴史に関係の深い外国人について述べた文から、問題が出題されています。

全体的に思っていたよりも少し正答率は低かったです。

問1は、ひらがな解答が多かったです。

問2・8・9・13・14は正答率が高くよくできていました。なかでも正倉院の写真を選ぶ問2は、正答率が90%を超えていました。

逆に正答率が低かったのは、問3・15で問3は白紙回答が多かったです。

有名な外国人の名前はよくできている反面、少し有名でない人物の名前になると極端に正答率が落ちました。

問6はフビライハンと勘違いした受験生も多かったようです。

近現代史がやや苦手な人が多いようにも感じました。基本的な問題が多く出題されています。取りこぼしのないようにしてください。

また、教科書にでてくる人名などはしっかり漢字で書けるようにして下さい。ひらがなは減点の対象とします。

②は地理の問題。

4つの都道府県の特徴を説明した文から問題が出題されています。

全体的に非常に正答率が低く、最初に都道府県の名前を間違えると、連鎖的にそれ以降の問題も不正解

となることから、正答率が低くなったのではないのでしょうか。

都道府県の農業や工業・気候の特徴をしっかりとめるだけでなく、理解することが正答率アップにつながります。他の分野の問題より、より深い理解が求められる分野です。この分野からは、例年必ず地図の問題・気温図・農産物のグラフが出題されていますので、その対策は必ず準備しておいてください。

③は公民の問題。

昨年におこった出来事から出題されています。半分は基本問題、半分は時事に絡む問題です。

全体的に正答率が低かったのが特徴です。

問1のイギリスの国旗は、ほとんどの受験生が正解していました。

問2はニューヨークと勘違いした受験生が多かったです。

問3・5・8も正答率が極端に低かったです。

比較的、基本問題は比較的的正答率もよかったですですが、時事問題対策が少しできていなかったようです。

公民受験対策としては、基本問題を取りこぼしなく、ここ半年までに起こった主な出来事を整理しておく必要があると思います。

対策と アドバイス

教科書に載っている語句や出来事を中心に問題を出しています。学校の授業の重要性をよく考え、教科書を中心とした基本的事項を理解しておくことが大切です。そして、資料や地図を使って自ら調べるといった自発的な学習を心がけてください。さらに、新聞やテレビなど、現在話題となっている出来事や時事に関する事から関心を持つようにしてください。また、例年繰り返して述べていることですが、基本的な用語・地名・人物名などは漢字で正確に書けるようにしてください。